

# 町村週報

(町村の購読料は会費)  
の中に含まれております

## 3281号

毎週月曜日発行

発行所 全国町村会 〒100-0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号：電話03-3581-0486 FAX03-3580-5955

発行人 横田真二：定価1部40円・年間1,500円(税、送料含む) 振替口座00110-8-47697

<https://www.zck.or.jp/>



豊かに水を湛える、早明浦ダム (高知県土佐町)

### もくじ

随情	フォーラム	政
想報		策

「スポまち」長官表彰2023」  
 ～スポーツによるまちづくりに取り組み自治体を応援します！～  
 スポーツ庁参事官(地域振興担当) スポーツ地域振興調査官 塚田 裕介…(2)  
 運動公園の整備を契機に「スポーツを核としたまちづくり」をめざす  
 愛知県美浜町…(6)

奈良県町村会長・安堵町長 西本 安博…(12)  
 フリーアナウンサー 青山 佳世…(11)

### 写真キャプション

貯水量、全国第4位の早明浦ダム。「四国の水がめ」として、多くの人々の暮らしや産業を支える。再生事業では既存の放流ゲートよりも低い位置に放流管を3本新設する。大雨が予想される場合、ダムの水位が低くても事前に放流することで貯水容量を増やすことができ、下流域の洪水被害を軽減するという。完成は2028年を予定している。

### コラム

## 「地蔵寺村」の響に誘われて

フリーアナウンサー

青山 佳世

「地蔵寺村」何とロマンあふれる響きでしょう。今年の2月に亡くなられた「均等法の母」と呼ばれた赤松良孝先生のお母さまの故郷です。「高知へ6里 いくつもの山を超えて行った」とお話しになられる程、山深い場所だったと言われます。先日、私たち女性リーダーの集まりで高知に行くことになり、地蔵寺村へぜひ行ってみたいと思ったのですが、町村合併で土佐町となり手がかりもありません。数年前に「四国のいのち」と言われる早明浦ダムの視察にお邪魔しました。その後大規模な洪水に備えるための再生工事が進んでいると聞いて再び視察することにしました。その打ち合わせの中で「旧地蔵寺村は早明浦ダムのある今の土佐町です。生家もわかるかもしれない」とのお返事。思わぬ展開に胸が躍りました。ダム事業は地元との密接な意思疎通の中で行われますから、よく存知なんです。

ダム直下で吉野川と合流する地蔵寺川を下っていくと、そこが旧地蔵寺村です。水を育む豊かな森林に恵まれ、重厚な門構えと石垣の塀のお宅が並んでいます。歴史が穏やかに流れる行まいです。私たちを迎えてくださったのは、元町長の西村卓士さん、赤松先生のお母さまの遠い親戚筋にあたる方です。赤松先生は平成7年(1995年)に、お母さまの墓参りに旧地蔵寺村を訪れ、小学生と語りあう当時の写真も町の館報に残っていました。平成14年(2002年)に高知市を訪れた赤松先生から「先回訪れたあの学校に植樹して欲しい」とお話があり、思い出の小学校の入り口に金柑を植樹されたそうです。今は土佐町役場地蔵寺支所となった旧地蔵寺小学校、地元の木をふんだんに使ったぬくもりを感じる場所です。その金柑が枯れてしまい、赤松先生とのご縁も途切れてしまったと思っていたところ、思いがけず東京から来てくださった「…」と西村さんは感慨深げに一緒に植樹してください、私たちがまた胸が熱くなりました。植え直した金柑が赤松先生の想いをつないで大きく育ってくれることを祈りつつ土佐町に別れを告げました。また金柑を見に行きます。

# 「スポまち！長官表彰2023」 ～スポーツによるまちづくりに取り組む 自治体を応援します！～

スポーツ庁参事官（地域振興担当）  
スポーツ地域振興調査官 塚田 裕介

## 1. はじめに

前回（2023年5月29日発行・3241号、6月5日発行・3242号）、「1周年!!「スポーツ・健康まちづくり優良自治体表彰2022」―スポーツによるまちづくりを応援します―」において、スポーツによる地方創生、まちづくりの考え方や「スポーツ・健康まちづくり優良自治体表彰2022」について、ご紹介させていただきました。  
今回は、前回に引き続き、「スポまち！長官表彰2023」で受賞された町の取組をご紹介します。

## 2. スポーツによるまちづくり

昨年11月、第3回目となる「スポーツ・健康まちづくり」優良自治体表彰（通称：スポまち！長官表彰）が開催されました。この表彰は、東京2020大会終了後、スポーツツーリズムの推進、障がい者スポーツの体験・交流、スポーツがしたくなる環境整備等のスポーツ・健康まちづくりに積極的に取り組む自治体とする自治体を応援するため、2021年よりスタートしたもので、これまで延べ76の自治体が表彰されてきました。

スポーツによるまちづくりは、大きく分けると2つの観点があります。

1 点目は、地域外から人を呼び込み、地域の稼ぐ力の向上につながる交流人口の拡大を図る、スポーツツーリズムの推進等のアウトター施策です。2 点目は、誰でも日常的に出歩き、体を動かす、スポーツが出来る場・環境をつくり、地域住民の健康増進や地域内経済の活性化を図るインナー施策です。

これらに両輪で取り組むことで、合宿参加者や旅行者の滞在による消費等の経済効果や、地域のコミュニティ形成やにぎわいづくり等の社会的効果が期待されます。  
このような、スポーツによるまちづくりの取組をより全国的なムーブ



▲表彰式典でのフォトセッション

## 3. 「スポまち！長官表彰2023」開催レポート

メントとするため、「スポーツ・健康まちづくり優良自治体表彰」が創設されました。  
昨年11月に開催した「スポまち！長官表彰2023」においては、26

政 策

の自治体を表彰させていただきまし  
た。

表彰式典に先立ち、特別ゲストを  
お招きしたトークセッションも開催  
し、スポーツジャーナリストの増田  
明美さん、株式会社LDH  
JAPAN 代表取締役会長兼社長  
CEO/CCOのEXILE  
HIROさん、元バドミントン日  
本代表選手の潮田玲子さんをお迎え  
し、「体を動かし、ヒトと地域を繋  
ぐ『まちづくり』のミライ」をテー  
マに、室伏長官とともにトークセッ  
ションを行いました。

表彰式典では、室伏長官より受賞  
自治体の首長に表彰状を授与し、首  
長の皆さまからは取組計画に関する  
意気込みが述べられました。

4. 「スポまち」長官表彰2023  
3 「受賞自治体の取組紹介」

「スポまち」長官表彰2023」  
では、26自治体が受賞されましたが、  
このうち3つの町の取組をご紹介します。  
各自治体の特色を活かし  
たスポーツによるまちづくりの取組  
にご注目ください。

○愛知県美浜町

スポーツを核としたまちづくり事業  
スポーツでつなぐ、美浜の未来

**スポーツを核としたまちづくり事業** **スポーツでつなぐ、美浜の未来** **スポまち！長官表彰2023**  
⑬愛知県美浜町

**<目標分野>** ※該当するものに全て印  
 ① スポーツを活用した経済・社会の活性化  
 ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防  
 ③ 自然と体を動かして「楽しいまち」への転換

**<目標内容>**  
 取組の効果を最大限に引き出すためには我が町の特性を活かした推進体制で取り組むことが必要不可欠であり、行政や住民、宿泊・飲食・観光事業者を始めとする産業、スポーツ科学部など様々な教育・研究分野を有する日本福祉大学、スポーツまちづくりに関する専門的な知見やノウハウを有する民間企業など「スポーツ」によって繋がれた者同士が一体となり、共通のビジョンを見据えて前例にとらわれることなく突き進んでいくことで、町全体が成長し続け、魅力と活気にあふれる輝く町となることを目指す。

**<PRポイント>**  
 ① **美浜町運動公園**・・・本町の交流人口・関係人口増加と消費拡大による地域経済の活性化を図るため、美浜町総合計画に基づく名鉄知多奥田駅周辺のまちづくりの一環として、陸上競技場（日本陸上競技連盟第3種公認）を中心とした**美浜町運動公園**の整備  
 ② **スポーツを核としたまちづくり**・・・運動公園の整備を契機として、運動公園を軸に**スポーツと健康・福祉・教育・経済を連動**させた「**スポーツを核としたまちづくり**」に取り組むことで、町が抱えるさまざまな課題を解決し、町全体の活性化を図ることを目指す  
 ③ **デジタル田園都市国家構想交付金の活用**・・・今回の「**スポーツを核としたまちづくり事業**」に関し、デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）を活用

**<概要>** 計画期間：～令和8年3月31日

**<現状・課題>**  
 ① 運動・スポーツの機会の少なさによる住民の地域への魅力度・愛着度低下<インナー向けの課題>  
 ② 地域の魅力や価値の発掘・発信不足によるアウトターの取り込み不足<アウトター向けの課題>  
 ③ スポーツまちづくり事業推進の旗振り役の不在  
 ④ 大学生の卒業後の町外流出

**<総合的な取組内容>**  
 ① 住民のウェルビーイング向上に資するプログラムの開発・実証・確立

**<宿泊事業者向けセミナー>**  
 ② 我が町の特長や地域資源を活用したアウトター向けコンテンツの開発・実証・確立  
 ③ 域外来訪者の受け入れ・おもてなし体制の再構築  
 ④ 「スポーツまちづくり」の中心的かつ推進役を担う、地域自身がオペレーションする持続可能な事業主体の組織・育成

**美浜町が目指す事業体**  
 関係団体に横串を刺し、**オール美浜の体制**でまちづくりに取り組んでいく

**各種基礎データ**  
 ● スポーツ部局の所属先：教育部生涯学習課  
 ● 地方スポーツ推進計画：美浜町スポーツ推進計画  
 ● 地方版総合戦略：第2期 美浜町まち・ひと・しごと創生総合戦略  
 ● 地域スポーツコミッション：一般社団法人みはまスポーツコミッション（仮称）（R6.9～）

**【問合せ先・電話番号】**  
 愛知県知多郡美浜町総務部企画課  
 スポーツまちづくり推進係 0569-82-1111（311）



▲愛知県美浜町

愛知県美浜町では、スポーツを軸  
に多様な人々が集い、魅力と活気あ  
ふれる輝くまちづくりを目指してい  
ます。現在整備を進めている「美浜  
町運動公園」を核として、地元関係  
団体間の密な連携と地元大学の資源  
を最大限活用し、スポーツと健康・  
福祉・教育・経済を連動させた「ス  
ポーツを核としたまちづくり」に取  
り組むことで、町が抱えるさまざま  
な課題を解決し、産官学と連携して  
町全体の活性化に取り組めます。

○高知県土佐町

湖の駅を核とした新事業創出+  
ITフル活用のビジネスインフラ構  
築でまちづくりに貢献

政 策

“湖の駅”を核とした新事業創出 + ITフル活用のビジネスインフラ構築でまちづくりに貢献

スポーツ！長官表彰2023  
◎高知県土佐町

＜目標分野＞ ※該当するものに全て印

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ③ 自然と体を動かして「楽しいまち」への転換

＜目標内容＞

- ① カヌー競技振興×学校部活動の地域連携で新たな事業モデルを構築
- ② ガイドツアー×イベント（アウトター/インナー）×スポーツ/体験型合宿等の包括事業化
- ③ 湖の駅とのシナジー+αでスポーツウェルネス事業を立ち上げ
- ④ ITフル活用のビジネスインフラを地域S C内に構築、その後、オープン化（地域への開放）を推進

＜PRポイント＞

**湖の駅** sameura lake town  
さめうら湖を中心としたスポーツと観光の拠点。「さめうらカヌーテラス」「さめうら荘レイクサイドホテル」「さめうらテントパーク」の3エリアから構成される。ITフル活用のビジネスインフラを推進力に、多様な人材交流、アウトター/インナー双方の健康増進とリフレッシュ、食/宿を包含した楽しめるエリアとして湖の駅の価値を確立させる。

＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



＜概要＞ 計画期間：～令和8年3月31日

（現状・課題）

- ◆一社）土佐町SCの経営基盤/運営体制が脆弱 ⇒ 本PJを持続的に推進/発展させる組織として強化が必要
- ◆人材確保難 ⇒ IT活用/多様な働き方の実現により、効率的に高い付加価値を提供できるビジネスインフラの構築が必要

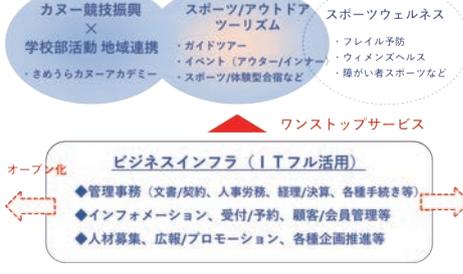
＜総合的な取組内容＞



地域のカヌークラブ「さめうらカヌーアカデミー」が学校部活動と連携、新たな事業モデルでカヌーの適地としてカヌー人口の増加/定着化を図る



「湖の駅」3エリアの施設とITフル活用で構築したビジネスインフラでスポーツ/アウトドアツーリズムの包括事業化およびスポーツウェルネス事業の立ち上げを実現



各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先：土佐町教育委員会
- 地方スポーツ推進計画：なし
- 地方版総合戦略：第2期土佐町まち・ひと・しごと創生総合戦略
- 地域スポーツコミッション：一般社団法人土佐町スポーツコミッション

【問合せ先・電話番号】

高知県土佐町企画推進課  
Tel.0887-82-2450

〇鹿児島県大崎町  
スポーツが結ぶ人・夢・おおさき  
all sports all player all supporter

高知県土佐町ではスポーツコミッションを核として、スポーツと観光の拠点である「さめうら湖」を中心にITをフル活用した新規事業の創出に取り組みます。多様な人材交流、健康増進とリフレッシュ、食・宿を包含した楽しめるエリアとして「湖の駅」の価値を確立させるとともに、まちづくりを担う多種多様な組織の共有資源としてビジネスインフラを構築し、ITを活用したワンストップ化を図ります。



▲高知県土佐町

鹿児島県大崎町では、大会や合宿誘致、ツーリズムの推進、魅力的な施設整備などのアウトター事業と健康増進、スポーツイベントの開催、おもてなし推進などのインナー事業の展開に取り組みます。両事業が連携・支援を行いながら、「スポーツ観光おおさき」を中心に地域一体となった健康増進・交流人口増・地域経済の循環を促す仕組みづくりを形成し、人口減少・少子高齢化などの課題解決を図ります。



▲鹿児島県大崎町

5. さくら市

パリでのオリパラ大会を目前に





▲2024年6月30日にオープンする美浜町運動公園陸上競技場と交流広場

愛知県  
み はま ちよう  
美浜町

運動公園の整備を契機に  
「スポーツを核としたまちづくり」  
をめざす

美浜町の概要

愛知県美浜町は、知多半島の南部に位置し、東は三河湾、西は伊勢湾に面し、その東西両海岸に向かって広がる平地と、ほぼ中央を南北に知多丘陵が連なる面積46・20平方キロメートルの温暖にして緑豊かな町です。昭和30年4月、河和・野間の両町が合併し、美浜町として発足。次いで同32年3月に小鈴谷町上野間地区が合併し、現在の美浜町となりました。

三河湾国定公園として指定されている美しい自然が広がり、温暖な気候、海水浴場として利用されている白砂の



▲天然記念物「鶺鴒の山鶺鴒繁殖地」



フォーラム



▲時志観音



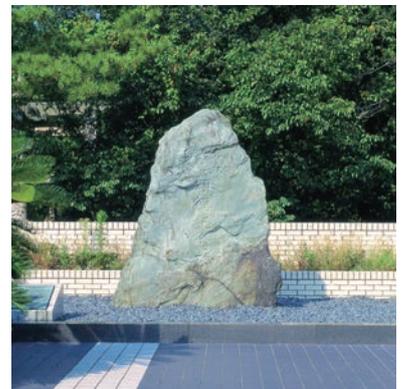
▲大御堂寺「野間大坊」

一方、緑豊かな本町の自然環境の中で、日本福祉大学、愛知県美浜自然の家などの教育施設が立地し、文化都市として、また、鉄道の整備、自動車専用道路の知多半島道路・南知多道路の4車線化、伊勢湾の海上に中部国際空

港（セントレア）が開港するなど住宅都市としての魅力も増えています。

また、新南愛知カントリークラブなどのゴルフ場、南知多ビーチランド、食と健康の館を始めとするレジャー施設があり、いろいろな楽しみ方ができます。

また、新南愛知カントリークラブなどのゴルフ場、南知多ビーチランド、食と健康の館を始めとするレジャー施設があり、いろいろな楽しみ方ができます。



▲和訳聖書発祥の碑



スポーツでつなぐ、美浜の未来  
BE A CHALLENGER!



これらの特性を活かすためにも、「スポーツでつなぐ、美浜の未来」というスローガンを打ち出し、美浜町のスポーツまちづくりの旗手として、美浜町と日本福祉大学が共同で「スポーツまちづくり推進室」を設立しました。令和6年（2024年）6月に先行完成予定の陸上競技場・交流広場を中心

に、多角的なスポーツを活用したまちづくりを目指し地域の課題解決とスポーツ振興を同時に進めることで、地域の未来を切り開いていく計画を進めています。

●美浜町運動公園WEBサイト (<https://mihama-sportspark.aichi.jp>)



▲ビジョンブック表紙

フォーラム

ター施策の両面からアプローチしていきます。ここで重要なことは、インナー施策からしっかりと構築していくことで、インナーから効果的なアウトター施策へとつなげていくこととしています。

す。よくアウトター施策から入る事例を見かけますが、本町ではその方向性を最初にしっかりと設定し、機運醸成を図りながら進めていくことにしています。またその考え方は、進めるにあたり

とで、子供たちの目は輝き、美浜町に住んでいることを誇らしく感じている。

**目指すビジョンとして「多様な人々が集い、活気あふれる輝く町へ」を掲げ、私たちが想い描く4つの姿をイメージ。**

1. 全ての人が健康で、過ごしやすいまち

日本福祉大学との「健康・福祉」をテーマにした活動や、運動公園を中心とした様々な大会、パラスポーツなどに触れ、町内の運動、スポーツへの意識が高まり、年齢や性別、国籍、心身の障がいのある無に関係なく多様な人々が笑顔で元気に生活している。

2. 子供が日々充実し、目が輝いているまち

スポーツと自然を取り入れた学習プログラムなど、子供の成長の場としても注目を集めている。また、国際大会が開催され、有名なアスリートが国内外から訪れるこ

3. 若者が住みたくなる、通いたくなるまち

「スポーツの町」として賑わいをみせることで、スポーツに関連する商業施設、企業誘致が進み、働く環境が整っていくことで、若者が定住したり、インターンやUターンなど町外からも多くの人が移住するまちになっている。

4. 多様な人々が集う、ファンで溢れるまち

運動公園を中心とした様々な大会、自然を活かしたアクティビティや合宿の場として賑わうことで、国内外からアスリートや、観光・観戦を楽しみに多くの人が訪れ、美浜町の自然やおもてなしに触れ、また訪れたくなる気持ちになって帰っていく。

りどうしても形骸化してしまいますので、ビジョンブックにまとめ、何かあればそこに戻り全員で考え理解を深めるように徹底しています。

**町内に向けたインナー事業**

具体的にインナー施策である実証事業の事例を説明していきます。まず子どもたちの体力向上や英語教育の充実にも焦点を当てている事業となります。町内の小学生を対象に行われる「English Sports Camp」では、身体を動かしながら英語を学ぶ、リトラルフィジカルレスポンス」をベースに、



▲English Sports Camp

さまざまなスポーツ科学の要素を取り入れた新しいプログラムを導入し、地域の教育の質の向上を目指しています。いわゆる「授業」となると、整列したり話を聞いたりすることに時間が取られ、実際に体を動かす時間が短くなってしまいます。昔に比べ、現代の子どもたちは運動量が足りていないとの報道もありますので、動作を止めることなく常に動いていることを意識しています。運動量を確保しながら英語でコミュニケーションをとって発散するのですが、英語もインプット型よりアウトプット型を多めに取り入れており、ただ単に机に向かって読み書きをする学習方法では得られない、非常に理にかなった英語学習方法であると考えています。英語が好きなのが運動を好きになり、運動が好きなのが英語を好きになるといったような好循環も生まれやすくなっています。今は学校の家庭や体育館で行うことが多いですが、今後は本町の自然資源を活かして、海や山や畑のような子どもたちの五感を刺激するロケーションでEnglish Sports Campを実現することにチャレンジしていく予定です。既に令和5年度の実証事業を終えたところですが、参加者や保護者から高い評価をいただいております。2年目以降の継続事業となりました。小学2年生を対象とし

フォーラム

た授業と放課後活動と連動しており、多くの生徒が楽しそうに動き笑顔で英語を発している姿も楽しくなる光景となっています。毎週生徒の英語の発音の上達や積極性の変化に驚きつつも何より嬉しい瞬間です。またこの取組は今後本町が予定している小中一貫校に向けた特色あるカリキュラムとしても期待ができるため、生徒や保護者へのヒアリングをもとに、教育委員会、学校などと協議しながら魅力ある取組へと進めていければと思います。

本町に人々を呼び込むためのアウトソーシング施策

一方、アウトソーシング施策としては、スポーツ合宿の誘致として、筑波大学蹴球部にモニター合宿並びに日本福祉大学サッカー部との合同練習や交流会などを通して地域の魅力に触れてもらいながら、本町におけるスポーツ合宿受け入れの課題発掘を行っています。また大会の企画や地域との連携を踏まえたイベントなども実施していく予定となっています。

さらには地元食材を活用したメニュー開発ワークショップなど、地域資源を活かしたプログラム開発を進めており、サッカー日本代表専属シエフの経験を持つ西芳照氏をお招きしス

ポーツ合宿・大会誘致のためのおもてなし体制の構築と、町内宿泊関係者の知識・意欲向上に向けて検討もすすめています。これらの取組は地域住民にとっても普段では得られない経験となっており、着実な機運醸成にも寄与していることを実感しています。

その他、成人向けのアウトドアフィットネスプログラムや高齢者向けのデジタル運動教室など、地域住民全般を対象としたプログラムも開発し、これらのプログラムを通じて、地域住民の健康増進と生活習慣の改善を図っていきます。



▲今年度表彰された自治体の皆さま

スポーツ庁室伏長官より表彰されました

今回、本町の取組がスポーツを活用した地域づくりに取り組む自治体として、スポーツ庁より「スポーツ・健康まちづくり優良自治体表彰(スポまちー長官表彰)」を受けることができました。東京都内において、昨年の11月10日に開催された式典に八谷町長が出席し、室伏広治長官から直接表彰されました。これは、東京五輪とパラリンピックのレガシー(遺産)を継ぐためスポーツ庁が設けた表彰制度で、今回は全国26の自治体選ばれました。



▲野間崎灯台(町のシンボル)

今後の展望としては、これらの取組をブラッシュアップしつつスポーツを入口に健康・福祉、教育、経済に波及効果をもたらすスポーツまちづくりの好循環としていきます。そのためにも地域と大学との産官学連携強化が大きな鍵となってくるため、常に近い距離で話し合いながら、スポーツでつながる美浜町の可能性を最大限に発揮していきます。

●みはまスポーツまちづくり推進室インスタグラム (@mihama\_sports\_park)



愛知県美浜町 教育委員会  
生涯学習課 戸田 典博

●美浜町運動公園整備事業について





地方公共団体金融機構

## 出前講座・実務支援(個別相談)を実施しています (講師料・旅費はJFMがすべて負担します。)

### 令和6年度 出前講座

— 講義内容を選べるオーダーメイド型講座 —

- ▶金融機関出身の自治体ファイナンス・アドバイザーをはじめとする講師が団体の要望に応じたテーマ・方法で講義を実施します。
- ▶講師派遣または Web 会議システム等によるオンライン形式での対応が可能です。

#### 講義テーマ(一部)

※詳細は機構ホームページをご覧ください。

##### 資金調達

地方債の金利の見方

[1時間程度]

銀行等引受債の借入交渉

[各テーマ 30~60分程度]

実践スプレッド分析

[1~1.5時間程度]

・借入期間と固定金利方式 ・金利見直し方式  
・基準金利の考え方 ・据置期間 ・債権譲渡 等

他

##### 資金運用

資金運用のリスクと管理

[1.5~2時間程度]

・資金運用のリスクと留意点

・金融商品のリスクと管理

・債券運用の方法

##### 財政関連

財政分析と地方債管理

[1.5時間程度]

公営企業改革と公営企業決算の見方

[1.5~2時間程度]

財政収支見通しと人件費の長期推計

[1時間程度]

地方公会計導入と公会計決算の見方

[1~2時間程度]

##### 経済・金融

指定金融機関と公金振込・収納手数料

[1.5~2時間程度]

経済の基礎知識

[1~2時間程度]

他

### 令和6年度 実務支援(個別相談)

— 課題解決に向けた  
専門的なアドバイスを実施 —

- ▶金融の専門知識や実務経験豊富な自治体ファイナンス・アドバイザーが団体の課題や疑問の解決に向けて専門的なアドバイスを行います。
- ▶講師派遣、電話・メール、Web 会議システム等によるオンライン形式での対応が可能です。

#### 過去に相談をいただいた事例の一部



Q) 数年前から債券運用を始めました。満期保有するつもりはなく途中売却による売却益を見込み、超長期債を中心に保有しているのですが、最近は市場金利が上昇しており、売却益が見込めない厳しい状況です。何かいい方法はありませんか？

A) お手元にある20年以上が中心の超長期債券は金利上昇により全銘柄含み損の状態です。その対処法としては、満期保有して元本の償還を待つか、金利が再び下がる(価格が再び上がる)のを待って売却するか、が主な対策だと思われます。  
また、引き続き債券を購入する予定でしたら、なるべく期間の短い債券を選択することをお勧めします。利回りは低いですが、もし金利が上昇しても超長期債よりは価格下落額が小さくなります。ただし、金利上昇時に途中売却が難しいのは償還期間が短くても超長期債と同じですのでご注意ください。  
債券購入の際には提示された利率だけで判断せず、償還期間と金利の動きをよく見定めて、買うタイミングも大切と覚えておいてください。

自治体  
ファイナンス・  
アドバイザー

#### お申し込み方法や、支援実施までの流れはこちら

- 機構ホームページをご覧ください。

<https://www.jfm.go.jp/support/development/index.html>

JFM 人材育成・実務支援

検索

#### お問い合わせはこちら



地方公共団体金融機構

地方支援部ファイナンス支援課

☎: 03-3539-2677 ✉: finance@jfm.go.jp

※活用を検討される場合、  
電話またはメールで  
お気軽にご相談ください。

# 町村

# ご当地キャラじまん

Vol.143

特産品だけじゃない!

文化・歴史を身にまとして観光大使!!

ご当地自慢の美味しいものや伝統行事を身にまとい、体を張ってPRしているご当地キャラたちを紹介するコーナーです。今回は、西ブロック(中国・四国・九州・沖縄)からピックアップ。

西ブロック



平成22年(2010年)に神石高原町観光協会がマスコットキャラクターを公募し、圧倒的な知識と経験を持つ「こんにやく仙人」が誕生しました。ほかにも神石高原町の特産品をキャラクターにしようという案が持ち上がり、困難なことをやり遂げ、無茶振りに強い「神石牛仙人」、インテリで博学の「トマト仙人」、芯が強く、新しい物好きで「ピオーネ仙人」が誕生。「神石高原四人衆」として活動を開始しました。それぞれ名前の頭文字がデザインされた浴衣を着ており、持っている杖は頭文字のアルファベットのみでの活動でしたが、待望の着ぐるみが完成し、令和5年(2023年)11月に役場本町でお披露目されました。以降、町内外のイベント等に参加し、神石高原町と特産品のPR活動に務めています。

## 神石高原四人衆

### 神石高原町マスコットキャラクター



(写真左から) こんにやく仙人: 思慮深く穏やかな性格。特技は「必殺こんにやく返し」。神石牛仙人: 荒っぽいが気は優しい。特技は「怪力」。トマト仙人: 明るく前向きで情熱的な性格。「情報収集と町内の歴史探索」。ピオーネ仙人: 姉御肌。特技は「料理」で新しいレシピの開発が得意。

## 広島県神石高原町

### 高原油山マスコットキャラクター

## たかぼー・はるちゃん

## 宮崎県高原油山町



たかぼー(写真右): 10月5日生まれの男の子。のんびり屋さんでいたずら好きだけど、おっちょこちょい。ダンスと剣が得意。はるちゃん(写真左): 1月1日生まれの女の子。みんなに優しく、あざとかわいい。特技はLOVEヒム。ふたりとも永遠の5歳。

平成23年(2011年)に発生した新燃岳噴火災害からの復興をアピールするために、平成24年(2012年)8月16日に誕生したキャラクター。「たかぼー」は初代神武天皇にあこがれる古代人をモチーフとしており、「はるちゃん」は天照大神がモチーフです。名前は、高原油山を広く周知するために、2人合わせて「たかはる」としました。最近では、「初代神武天皇ご生誕の地、日本発祥の地 高原油山」を町内外にPRするために、朝のあいさつ運動や火の用心運動、イベント参加、各種SNS配信等の活動を行っています。ふたりとも不思議な力を持っていて、「たかぼー」の剣に優しく触れると何事にもやる気スイッチが入ったり、「はるちゃん」と優しく握手や手にタッチすると幸せをもらえたりするのだとか。これからもふたり仲良く町のPR活動を続けていきます。

## 「よみたんブランド」パワーアップキャラクター

## よみとん

## 沖縄県読谷村



好奇心旺盛で美味しいものと楽しいことが大好きな男の子。特技は「カチャーシー」。趣味は食べ歩き、アート、お祭り。紅芋のお菓子「ガリガリ」が好物。お母さんが大の紅芋好きでよく食べていたため、体の模様が紅芋風になったらしい。

読谷村の特産品をトータルで「よみたんブランド」と位置づけ、その素晴らしさを全世界へ発信するための取組の一環で、多くの人々に愛着や親近感を持ってもらえるようなイメージキャラクターを作ることとなりました。より多くの村民に関心を持ってもらうため、6つの候補の中から村民投票を行ってキャラクターを決定する「選挙方式」にて、平成26年(2014年)誕生したのが「よみとん」です。モチーフは、読谷村の特産品「紅芋」。愛嬌のある姿から、村民にも人気が高く、ノートやキーホルダー、Tシャツ等、多くのグッズが販売されています。読谷村の特産品や文化等を世界に広める夢を叶えるべく、語尾に「〜トン」や「〜だトン」など「〜トン」などつけた話し言葉で、各種SNSで村の情報や魅力を発信しています。

次回は、中ブロック(北信・東海・近畿)からご紹介します

## 随 想

安堵町一帯は、奈良盆地の中でも最も低いところに位置し、河川のほとんがこの付近で合流しています。日本の始まりの地、奈良に情報と物を運んだのは大和川です。この情報と物は、大和川の北に広がる安堵の地に暮らす人々を刺激し、江戸末期から明治・大正・昭和にかけて多くの偉人を輩出いたしました。

近代陶芸の巨匠 富本憲吉氏、その生涯の友であった今村荒男氏は結核予防のBCG接種を確立し、医学

と発展し、明治の中頃まで町内の御幸ヶ瀬浜や隣接する板屋ヶ瀬浜は大変賑わっていました。

人の移動が水運から鉄道に変化する中、大正4年に安堵町内を横断する天理軽便鉄道が開業しました。翌年に現在の安堵交番付近に安堵駅が開業し、周辺には料理店や商店が並び、大いに賑わっていました。交通が充実していた安堵町は、人々の交流が盛んで、文化も発展し、著名な文化人や政治家を輩出しています。

現在に至ります。総面積4・31km<sup>2</sup>と全国で7番目に小さい自治体です。昭和30年代までは純農村地帯でしたが、昭和44年の「西名阪道路」(当時の名称)の開通を契機に、近接する法隆寺ICやJR法隆寺駅などを利用できる京阪神大都市圏の交通至便な地域として、宅地開発や企業立地が進み、昭和46年からは、敷地3万坪の東洋最大規模と言われたカーペット工場も操業しています。

産業では、カーペット等の内装材

また勤三と勤三の四男でもある今村荒男の生家は現在、安堵町歴史民俗資料館として活用しています。

人間国宝の富本憲吉の生家はうぶすなの郷TOMIMOTOとして「陶芸の郷安堵」を後世に受け継いでいます。

中世の武家屋敷で、国の重要文化財「中家住宅」もあり、これらのさまざまな文化は、この地に歴史を刻んでまいりました。

このように多くの偉人を輩出し、歴史文化が豊かな町に生まれ育った私は、奈良市職員として38年間奉職の後に、平成22年に安堵町長に初当選して以来、現在4期目となります。

当初から、「小さくても キラリ光る 交流のまち あんど」を合言葉にまちづくりを進めてまいりました。日ごろから人が行きかう賑やかで元気な町であって欲しいという願いからであります。

そして、安堵町の現況ですが、水害から我々の生命と財産を守るための取組として、国土交通省直轄の遊水地事業と西名阪自動車道を活用した企業立地を関係機関と連携して、積極的に進めています。

人口減少社会の中でも、企業活動等による活力あふれるまちを目指し、また、偉人の志を大切にしながらのまちづくりに生かしていきたいと考えています。



## 偉人の志をまちづくり

奈良県町村会長・安堵町長

西本 安博

界に大きな功績を遺しました。

荒男の父、勤三は奈良県再設置の立役者であり政治家、実業家として活躍し、子孫も実業界に功績を残しています。

安堵町は飛鳥時代には、聖徳太子が飛鳥と斑鳩宮を政務のために行き来したとされる太子道が通っていました。

また、水路では、飛鳥と難波を結ぶ水上交通の要衝でありました。この水上交通は、のちに大きな流通へ

時はさかのぼりますが、幕末の動乱が激しくなるにつれ、安堵町はい

やおうなしにその渦中に引き込まれていきます。特に大きなかわりがあったのは、天誅組の乱です。尊王攘夷運動が倒幕運動に移り換わる第一歩となったことだけは確かです。5年先には新しい世の中、明治維新を迎えます。

安堵町は、明治22年の町村施行以来、一度も市町村合併を行わず、昭和61年に安堵村から町制に移行し、

と手帳等の紙製品、模型用動力機械

の企業等が大規模な工場を有するほか、食品加工、綿加工などの中小企業が立地しています。農家の冬季副業として、かつて盛んであった和ろうそくの原料となるこの町の蘭草からひかれた灯芯は灯明の芯となり、長らく日本の暮らしを支えてきました。

先にも述べましたが、奈良県や安堵町の近代化は、今村勤三とともに歩んだといっても差し支えないでしょう。